

Part 3

事業フェーズ
「生産・輸送・販売」

— 国内ガスサプライチェーン —



ガスサプライチェーン*構築による 天然ガスの長期安定供給体制の確立

2014年はじめに本格稼働をはじめ直江津LNG基地と2014年末に供用開始する富山ライン。これらの完成により、国内外で自主開発した豊富な天然ガス資源と国内の供給インフラの最適活用が可能となり、より安定した供給体制が整います。

* ガスサプライチェーン：天然ガスの上流から下流まで（開発・生産・液化・輸送・気化・供給）の一連のプロセス

海外LNG事業と国内天然ガス事業のインフラを有機的に結びつける「ガスサプライチェーン」の構築

当社は中長期的に持続可能な天然ガスの供給能力を確保する目的で、新潟県上越市において直江津LNG基地の建設を進めてきました。この基地は完成すると新潟県の一般家庭の約7割に相当する63万世帯が1年間に使う都市ガス使用量に相当する量の36万㎥のLNGを貯蔵することができます。稼働後は当社が手掛けるイクシスやアパディをはじめとする海外プロジェクトからのLNGを受け入れる計画です。

この基地の完成により、天然ガスの供給能力と安定供給体制が一層強化され、当社グループの海外LNGプロジェクトと日本国内の天然ガス事業のインフラが有機的に結びつき、安定的に付加価値を生み出す「ガスサプライチェーン」の構築に大きく寄与します。

基地建設プロジェクトにおける安全操業と環境面での万全な配慮

直江津LNG基地の建設は、工種（工事種類）ごとにコントラクター（請負業者）が異なり、サブコントラクターを含めると最盛期には1,000名規模の作業員が従事する巨大プロジェクトです。そのため、安全操業と環境面での万全な配慮が欠かせません。建設現場では、当社グループのHSEマネジメントシステムに基づきPDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを確実に実施しています。日々行う従業員の現場巡視で不安全行動・不安全状態を抽出して是正しつつ、作業手順におけるリスクアセスメント、緊急避難訓練や救命訓練などを実施するほか、情報共有のための各種連絡会議や社内セミナーなどを定期的開催。コントラクターについても工事にかかわる全関係者が同じ情報を持って作業できるように徹底しています。環境保全については、周辺環境との共生を目指し、生物多様性の保全を中心に取り組んでいます。法令に基づき敷地面積の25%を緑化し、2013年10月には高・低木など合計60万本の植栽が完了する見込みです。生態系への配慮として、環境影響調査を定期的実施し、これにより、海洋生物への影響を微少に抑え海域生態系保護を行います。

地域との信頼関係の構築

この基地では、地域の方々から信頼していただくために、基地内の安全確保、環境保全に細心の注意を払って取り組んでいます。また、地域に開かれた基地となるべく、不断のコミュニケーションに努め、社会貢献活動を行っています。

具体的には2012年に地元小学生を招いて、「[直江津LNGタンク内絵描きイベント](#)」を開催しました。当社グループでは、将来を担う子どもたちにLNG基地を見てもらうことで、エネルギー資源と私たちの暮らしとのかかわり合いについて考えるきっかけにしたいと願っています。



2013年5月に開催した「第13回柏崎潮風マラソン」に、この基地で働く従業員を含め当社グループから94名が参加。選手として出場した全員が完走し、女子ハーフマラソンに出場した2名は入賞しました。「選手やボランティアとして参加することで地域の方々とのコミュニケーションが図れたと感じています」。

パイプラインを通じた天然ガスの安定供給

現在、この基地と併せ、パイプラインネットワークを拡充すべく、2014年末の供用開始を目指し、富山ラインの建設にあたっています。

富山県内ではこれまで、地元のガス会社が陸送でLNGを調達し、工場内で気体に変えてお客さまに供給していました。しかし、陸送では冬季に大雪などで調達が途絶える可能性があるほか、運搬能力にも限界があり、需要に十分応えられないという課題がありました。今後は、海外のLNGを当社の直江津LNG基地で受け入れ、富山ラインを通じて地元ガス会社の工場や沿線の大口需要家の工場まで直接ガスを送ることが可能になります。

当社グループは、一貫したガスサプライチェーンの構築を通じてエネルギー安定供給への期待に応えるとともに、高品質で安全・安心な天然ガスをお届けし、お客さまの持続可能な発展に貢献します。



2012年12月に直江津LNG基地に導入した運転訓練シミュレータは、さまざまな運転条件において、各機器の運転状況や挙動を実運転の感覚で体験できます。この訓練を通して操業開始後の安全対応能力向上を図っています。

Interview

弊社は、農業経営基盤強化促進法の改正後の第一号として株式会社の経営形態のもと、農業を使わない安全でおいしい大葉やハーブなどを生産・出荷しています。人にも環境にもやさしい経営を目指していますが、冬場は豪雪地帯のため暖房が不可欠です。

そこで、少しでも環境にやさしい加温設備をと検討した結果、完全燃焼すると水と二酸化炭素に分解される天然ガスを採用することにしました。水も二酸化炭素も植物の成長に不可欠なものですので、まさにぴったりの燃料です。パイプラインによる安定的な燃料供給で、冬場も5,000坪のハウス内ですくすくと成長する植物たちは真冬の風物詩となりつつあります。

株式会社 妙高ガーデン 代表取締役 山下光明様

